

連載

稲村公望氏が2004年10月出版された「ふるさと心も姿も美しく未来の邦を今生きる」(郵研社03-3584-0878)の中から一部抜粋して、連載しています。

# ばーちゃんのおい出

祖母は気丈な人だった。村の夏祭りの浜降りの行事の時には、拡声器を使って詩吟を高唱した。琵琶歌が得意中の得意。しかも筑前琵琶。日本髪を結って琵琶を片手に抱いた色白の記念写真を大事にしていた。

島の暦をとりよせて八白土星たの九紫火星など、もういつでも方違えをしかねない勢いであったから、風水の理には嚴格で、新築の家屋をどうするか、村人の相談相手にもなっていた。

姓名判断は、字画云々に加えて歴史上の人物の所業にやからしいことで、孫の名前は、もう将来を勝手に決めこんでしまっ

「そもそも荒木又右衛門ヤスカズは、伊賀の上野の鍵屋の辻云々と・・・」と講談の類に詳しく、どうも講談本あたりも若い時に読み耽っていたらしく、雑学の教養人だった。宮津の天橋立や安芸の宮島旅行で撮った記念写真をこっそりみせてくれたことや、フグの刺身は長門の浦の春帆楼でいただきなさいなどと、田舎の片隅で孫に大それた説教をしていたところをみると、破格の旅も重ねたらしい。

格子上の人物の所業にやからしいことで、孫の名前は、もう将来を勝手に決めこんでしまっ

同郷の柔術家で、もうそれだけで歴史に残る武道家などとも知己の間柄だったらしく、長らく東京は芝の白金で生活していたと言、大正の関東大震災の時には有馬侯のお屋敷の松の木の上に、娘を背負ってよじ登っていたというから、気丈であつたには違いない。易も得意で高

老のような敬称)から一字をとり、博武、博武は医者になり、次男は自分の養子にした挙げ句に難しい名前をつけてしまったから、公務員になった。明治の元勳西園寺公は開明の士で、暗殺されなかつたし、今は明治村に移された興津の坐漁荘などちゃんと格子に鉄棒がはいっていることなど見ておきなさいとロンドン会議のことまで詳しいのが口ぐせで、付けられた名前の方は、その重さに三歩歩まずの重圧である。妹は、瑞穂、八千代、翠(みどり)で、難しい名前だが、詮議しての上だから、それぞれ家庭には恵まれていると思う。稀

有の執念であった。アメリカでは、大学院の夫を支えることが多いので、Ph.D(博士号)をPush husband Doctorともいうが、祖母も同様、夫の学資を支えていたらしい。代用教員だった人を、東京高校に出し、帝国大学に入れ、ハーバードに留学させ、近衛兵にもしたというのに、夫が台湾に赴任する時には、自分はさっさと子供を連れて故郷の島に引き籠ってしまつた。

二・二六事件の前のことであるが、暁光と号する夫の達筆の手紙を大事にしまつてあつたから、孫の筆の手ほどきには多少厳しかったのかも知れない。その夫君が戦後の第一回の参議院議員に立候補して落選して、まだ閣下と呼ぶ人が生き残っていた頃に、島を訪ねてきたことがあるが、祖母は居ずまいを正して、迎えたことがある。子供心に思い出すのは、「いろいろ苦労をか

けましたね。」ともう禿げ上がった祖父が言い、祖母はうなずいたようにも記憶するが、縁側から上の座敷にあげることはしなかつた。障子だけの明かりと

を自慢していただけに、何とも暑苦しい情景であつた。南の島の伝説では、舟が沈んだとき

には妹が、妹というのは女であり、恋人であり、娘であり、今の意味での妹でもかまわないが、兄弟を支え浮かせるといふ。そんなことだったのかも知れない。立身出世の道を歩んだ祖父も、台湾の知事、南洋の司政長官などの経験を経んだにしても、その心遠き都に帰るばかりではなかつたのかも知れない。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

米海軍の毛布で、洋服を作り、ネイビーブルーで東京の私学の幼稚園生のように驚くほどしゃれた制服に仕立て、孫に着せた。祖母は、箆笥の上部の開き戸の中、先祖の位牌に、毎朝毎朝「チヤンハチ」(島のことばで、茶の初)を供えた。茶柱で、日々の吉凶を占つた節もあるが、朝の冷気の中に、湯気でガラス障子を流

れ出るように見えたのは、不思議であつたし、月下美人を眺める満月の下でも、お茶の香気が、ブリキ筒の石油灯に照らされ魔除けとなつた。端目には貧しかつた土地の、しかし至福な一灯

は妹が、妹というのは女であり、恋人であり、娘であり、今の意味での妹でもかまわないが、兄弟を支え浮かせるといふ。そんなことだったのかも知れない。立身出世の道を歩んだ祖父も、台湾の知事、南洋の司政長官などの経験を経んだにしても、その心遠き都に帰るばかりではなかつたのかも知れない。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

には妹が、妹というのは女であり、恋人であり、娘であり、今の意味での妹でもかまわないが、兄弟を支え浮かせるといふ。そんなことだったのかも知れない。立身出世の道を歩んだ祖父も、台湾の知事、南洋の司政長官などの経験を経んだにしても、その心遠き都に帰るばかりではなかつたのかも知れない。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

有の執念であった。

アメリカでは、大学院の夫を支えることが多いので、Ph.D(博士号)をPush husband Doctorともいうが、祖母も同様、夫の学資を支えていたらしい。代用教員だった人を、東京高校に出し、帝国大学に入れ、ハーバードに留学させ、近衛兵にもしたというのに、夫が台湾に赴任する時には、自分はさっさと子供を連れて故郷の島に引き籠ってしまつた。

二・二六事件の前のことであるが、暁光と号する夫の達筆の手紙を大事にしまつてあつたから、孫の筆の手ほどきには多少厳しかったのかも知れない。その夫君が戦後の第一回の参議院議員に立候補して落選して、まだ閣下と呼ぶ人が生き残っていた頃に、島を訪ねてきたことがあるが、祖母は居ずまいを正して、迎えたことがある。子供心に思い出すのは、「いろいろ苦労をか

けましたね。」ともう禿げ上がった祖父が言い、祖母はうなずいたようにも記憶するが、縁側から上の座敷にあげることはしなかつた。障子だけの明かりと

を自慢していただけに、何とも暑苦しい情景であつた。南の島の伝説では、舟が沈んだとき

には妹が、妹というのは女であり、恋人であり、娘であり、今の意味での妹でもかまわないが、兄弟を支え浮かせるといふ。そんなことだったのかも知れない。立身出世の道を歩んだ祖父も、台湾の知事、南洋の司政長官などの経験を経んだにしても、その心遠き都に帰るばかりではなかつたのかも知れない。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

## 稲村公望氏略歴

昭和22年徳之島の郵便局の宿直室で生まれる。

郵政省の情報通信政策、国際協力部門を中心に、福岡、バンコク、名古屋、沖縄等で勤務。

平成17年3月退任。現在、中央大学客員教授。

には妹が、妹というのは女であり、恋人であり、娘であり、今の意味での妹でもかまわないが、兄弟を支え浮かせるといふ。そんなことだったのかも知れない。立身出世の道を歩んだ祖父も、台湾の知事、南洋の司政長官などの経験を経んだにしても、その心遠き都に帰るばかりではなかつたのかも知れない。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

って挿木で殖やすことも教わつた。一茶ではあつた。

が趣味であつた。植えた月下美人は八重葎のようになっていたし、真夏の夕に香る香りは、化粧の色よりも濃厚な具合であつたし、蜜柑類も土着の小蜜柑から温州、はては橘、ゆずまで一通りは揃えてあつた。最近ではグアバと呼ぶが、バンジローヤパッションフルーツの時計草なども所狭しと植えてあつた。琉球の桜は葉桜であるが、枝に脱脂綿をまいて気根のはえた頃に切

家庭料理 **大黒**

**元山 久美子**

(徳之島町 金見出身)

〒171-0043 東京都豊島区要町3-9-3

電話03-5966-5241

〔営業時間〕午後5時より

地下鉄有楽町線 千川駅3番出口より徒歩3分